

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (7-2)

団体名	NPO法人高砂海文化21C	代表者名	(職名) 理事長	(氏名) 河合清司
事業名	海洋プラスチックごみ問題を伝える、学ぶ、ヨットでのごみ回収実証			

< 事業実施実績 >

年月日 定例は「月1回」「毎○曜日」等で記入	場所	参加者 一般(スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
令和5年10月28日	高砂沖	9 (6)	トリニティー体験教室で、海洋マイクロプラスチックを考える座学、またヨットでプランクトンネットを引く体験、郷土の歴史学習、ヨットと北前船の風で動く原理は同じであることを参加者自らが操船して学ぶ、セーリングスポーツを学ぶ、
令和6年2月10日	堀川運河 と播磨灘 高砂沖	(4)	ヨットを利用して海洋マイクロプラスチックを定点採集する実証実験を実施する。
令和5年12月11日	花井邸	7 (2)	海のサロン
令和6年1月13日	花井邸	12 (2)	海のサロン

< 効果と成果 >

・トリニティー体験学習効果では、郷土の歴史学習は次(4)項で説明する。環境学習の座学は環境テキストを関係先の協力も得て編集冊子にした。内容は広義な視点を学び身近な問題にも繋ぎ、現状を把握することができるように工夫した。自らが出来ることを考え行動すること促す。SDGsとの関連確認をした。

ヨット体験ではヨットと北前船の動く原理を参加者が操船し学ぶ、セーリングはスポーツであることを学ぶ。マイクロプラスチック採取の模擬採取を試みる。前当日のキャンセルから参加人数減の結果、ただ参加者からは高い評価を受ける、非日常であるヨット体験には十分な安全配慮を行い無事に実施できた。

・海洋マイクロプラスチック採取実証では、上記ヨット利用の相乗を含め今後の小中高生の自由学習にも繋げることを確認、身近な海域状態を理科学習を通じて顕微鏡を使う等から興味向上にも繋がると思料。今回は高砂沖2箇所、堀河運河1箇所です水面下50cmの海水を採取、サンプル瓶に移して目視確認。顕微鏡利用で精度向上は可能。採取の海域、海流、風、航跡、位置、時間等を電子海図に記録、情報シート標準化に繋ぐ。

< 今後の展望 >

- ・トリニティー体験学習の募集は遍く公平を旨として、高砂市内小学校に5,000枚弱のチラシを配布、歩留は悪い。一方リピーター（参加者）の意見ではダイレクト連絡が欲しいとの意見、これはトリニティーを体験し内容評価されてのことである。参加者募集は興味を示す学校に絞るなど思料。セーリング体験は非日常スポーツとしても参加者の評価は高い。
- ・高砂がその昔「湊であり、舟運の要」であったことを「堀川運河と播磨灘をヨット体験する」事で認識を新たにされる、これを海の歴史や環境関連を体験型マイクロツーリズムのメニューとすることで地域の活性化の一助となれる。
- ・小学高学年生は海洋プラスチックごみの課題やSDGsについて理解しているが、ヨットを利用したマイクロプラスチック採取等の体験プログラムは小・中・高校生等への自由研究などの題材にできると思われる、年齢階層別実施ができるような体制作りや上記の課題に取り組みながら継続させることが重要と考える。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	500,000
参加費	6,500
自己資金	63,048
合計	569,548

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経費	応募行事ヨット使用料	160,000	150,000
	消耗品 (備品)	74,595	70,000
	マイクロプラスチック回収実 験ヨット使用料	40,000	30,000
	その他 (チラシ印刷委託等)	143,421	104,500
	小 計	418,016	354,500
間接経費 (一般管理費)		151,532	145,500
合 計		569,548	500,000